

ポートフォリオによる授業の実践とプロジェクト学習
Practice of Teaching and Project-Based Learning by Portfolio

尾場 均

人間社会学部 国際観光学科

Hitoshi OBA

Dept. of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies

Abstract: The learning support system “manaba” has been used as one of the tools for ensuring the quality of education at Nagasaki International University since the 2014 school year. By means of “manaba”, students can record their learning, set their goals for the courses they are taking, and reflect on what they have learned. “Manaba” can be utilized in a variety of situations. Not only class handouts and Powerpoint slides but also out-of-class preparation assignments for exams and qualifications can be uploaded. Moreover, it can be used to support students writing their graduation theses.

In this presentation, I'll introduce various examples for lectures, seminars, examination preparation, and project-based learning to show how to make the most of this learning portfolio system.

Key Words: portfolio, project-based learning, lesson improvement, fundamental competencies for working persons

要旨: 長崎国際大学では、2014 年度に教育の質保証を実現するためのツールの一つとして、学習状況を記録させ、受講する科目に目標設定や振り返りをおこなわせる学習ポートフォリオシステム「manaba」を全学的に導入した。学生の学びをサポートするポートフォリオとして様々な場面で活用するために、授業で使用するハンドアウトやパワーポイントを掲載するだけでなく、授業外学修のための課題や、資格取得のための練習問題を提示したり、卒業論文の指導等にも幅広く活用している。講義や演習、資格試験対策やプロジェクト型学習について、学習ポートフォリオシステムの活用事例を紹介する。

キーワード: ポートフォリオ、プロジェクト学習、授業改善、社会人基礎力

出席システムの利用

担当講義科目である映像文化論(131名)、情報処理論(120名)にて実施した。スマートフォンや従来型携帯電話での使用により受付時間は5分以内で出席確認を完了して結果をリアルタイムで表示することができる。出席カードの機能をクリッカー代わりに使用することで、双方向型の授業を展開することができた。機器の不具合や所持していない学生は1~2名で、出席カードによる確認で対応した。

資格取得について

前提条件付き 小テスト・ドリルの利用により、小テストや、反復学習を行うドリル(成績提示)が可能である。11月に実施したMicrosoft Word 検定試験の対策のために、ポートフォリオの「小テスト」による学習プログラムを作成した。11月の試験合格のために9月の夏期休業に11本の学習プログラムを段

階的に実施した。合格率は15%であったが、すべてのプログラムを最後まで終了した学生の合格率は95%であった。その他、掲示板機能を使って模擬試験問題や過去問題などを夏期休業中に配布した。

授業外学修状況のアンケート

manaba を使った課題や資料取得では、自宅等での学習を支援し、いつでも・どこでも学習が可能となる。全学共通科目で必修の「コンピュータ基礎演習ⅠB」の最終講義で健康栄養学科 70名、人間社会学部 182名に「自宅で授業の復習をしましたか」と「復習時間」についてアンケートを実施した。

健康栄養学科 78.6%、人間社会学部 54.9%の学生が「自宅で授業の復習をした」との回答があり、平均で復習時間は「30分以上」という結果であった。課題を提示していない14回の講義の中でも、健康栄養学科 73.6%、人間社会学部 41.3%の学生が授業外の時間に学習している事がアクセス状況で確認できた。

プロジェクト学習

教材配布など通常の講義単位のコンテンツを提示することはもちろん、学生に公開し動画も添付することも可能である。チームを作成し、チームごとのディスカッションやレポート提出が可能で、協働学習やPBLに利用する。今年度は「地域の理解と連携」前期 143名 後期 231名、「キャリア開発C」前期 237名、専門演習（ゼミ）、学外活動（ラジオ放送や佐世保民話の出版）に活用した。ポートフォリオを中心に、SNS や電子メールなど個々の特性を活かすことで、プロジェクト学習を遂行することができた。

活用事例

授業前に学生への予習連絡が可能である。また授業後に補足説明も可能で、講義後に毎回行う授業評価やアンケートの内容で、補足説明や次回の授業改善が可能である。また演習時間の提出物を授業終了後に提出や提出課題の確認することもできるため、学生が再び授業外・自宅などで復習ができる。自宅での学習時間の確保、教員と学生間でレポートの添削指導など、個別指導や学生同士でレポートを相互評価など、同じ履修者との共有も可能である。

今後の展望

単発的に「manaba」を使用しても学生自体にポートフォリオの概念がないためか、全学的にわたっての利用につながっていない。全学年を通して利用できることを指導していく必要があるのかもしれない。

学内で活用している教員、ポートフォリオを導入している大学での事例など講師を招き、話を聞くことで教員の理解や活用につながると考えられる。また、ポートフォリオを用いて評価資料（関連科目のレポートや試験成績、授業アンケートなど）をゼミ担当教員あるいは科目担当者が管理・閲覧できるよう、学内・学科内で共有することが望まれる。現在の学内で導入されているポートフォリオとは、学習記録ファイルとして自分の進歩や、振り返ることができ、学生の学習成果に関わるものを取りまとめた「学習ポートフォリオ」である。今後は学生のキャリアに関連する資料を集めたキャリアポートフォリオの導入が求められる。ポートフォリオを用いて自己の評価や達成状況がわかるよう学生生活を蓄積することで、日々の学習や実習などの経験を1年時から卒業までの学生生活を記録し、今後にどう活かすかなど、自ら考え行動することをサポートする必要と考える。また、教育改善や教育業績の評価を記録し、講義の内容をまとめ、教育内容や業績についてのエビデンスを記録し評価するティーチングポートフォリオシステムの導入も今後検討する必要があると思われる。

参考資料：朝日ネット、<http://manaba.jp/>